インディヘナのよりよい生活のためには何が必要なのか
～ボリビアの先住民の事例を基に～

風間　裕子

研究の目的

ボリビアはラテンアメリカの中で最貧国の一つであり、その貧困層の大部分を占めるのは先住民である。先住民はスペインの植民地時代には農奴あるいは使用人として労働していた。そのためスペイン人やメスティソ（スペイン人と先住民の混血）とは階層を異にしていた。現在に至るまでその階層は厳格に守られている。

先住民が多く住む農村部と都市部では経済面や生活インフラ面などの格差が激しい。そのため 1980 年代以降、ボリビアでは農村部から都市部へ移住するものが増えた。それらの多くは都市近郊部でインフォーマルセクターの就労を余儀なくされている。インフォーマルセクターでの就労条件はフォーマルセクターと比べて給与格差や社会保障の格差が激しく、更にその格差は拡大し続けている。また就学年数と所得には関連性がある。

これらのことから先住民の多くは貧困層に属し貧困が貧困を生むという悪循環におかれていると考えられる。すでに行われている公共政策も目に見える効果が現れていない。歴史的・世界的に有名である高度な文明を持ったインカやそれ以前の先住民と呼ばれる人々は、なぜ彼らの生活の場では社会的地位も低く、そのほとんどが貧困の状態にあるのだろうか。どのような社会的構造や理念が彼らを低い地位に落としているだろうか。どうすれば彼らが生きて行く上で今よりもう少し豊な生活を手にすることができるのであろうか。これらの問題意識は私がボリビアでの青年海外協力隊、国連ボランティアでの活動を通して抱いたものである。自分の活動の総括という意味も含め、農村部から都市近郊に移住した二重言語の先住民系の人々のよりよい生活とは何かを、またより良い開発には何が考えられるのかを提案することが本論文の目的である。

研究の方法

先住民が直面する格差の状況を検証するために、ラテンアメリカ全体とボリビアにおける、二重言語と階層差別の状況、農村部から都市部への移住と都市インフォーマルセクターについて主に文献による調査を行う。それらの先住民の貧困を生み出していると考えられる格差の解決に向けた試みとして、すでにボリビアで行われている政府・政府と連携した機関・NGO の活動を紹介する。そしてそれらの試みの成果について考察をする。これらの検証された状況と先行研究の文献を基に、先住民にとってのよりよい生活とは何かを定義し、その定義に基づいてよりよい生活のために必要である家計・教育・技術・組織について考察と提案をする。

論文の構成

第 1 章は研究の目的と方法を論じる。

第 2 章ではラテンアメリカとボリビアにおける先住民の二重言語と階層差別の状況を概説する。これらの概説から先住民であるための差別の問題を明らかにする。

第 3 章ではラテンアメリカとボリビアにおける農村部から都市部への移住の状況を概説

する。そして移住をしなければならなかったプッシュ要因を明らかにし問題点をあげる。

4 章では都市部へ移住したものの大多数が就労する都市フォーマルセクターについて論ずる。始めにインフォーマルセクターの定義について解説する。その後、特にボリビアはラテンアメリカの中でもインフォーマルセクターへの就労者が多い国であることから、ボリビアの都市部と農村部のインフォーマルセクターについての状況を解説する。

第 5 章では貧困削減に向けた取り組みがボリビアにとって重要な解決問題であるという認識の基に、これまでどのような解決策が実施されてきたかを政府機関、政府関連機関、NGO といった実施運営機関別に紹介し成果を考察する。

第 6 章においては、ボリビアの先住民は先住民であるということでその多くが貧困層に属していることをふまえ、始めに彼らにとってのよりよい生活とは何かを定義する。次にそのよりよい生活を実現するために家計・教育・技術の面から見た取り組みを考える。またそれらの取り組みを実施するために先住民の人々が地域での組織化を目指し、政府、関連機関、NGO 等と連携してより効果的な行動を実施することを提案する。

論文の概要

ラテンアメリカには 16 世紀にスペイン人がやってくるまでは数多くの先住民部族が存在していた。先スペイン期に人口密度も高く高度な文明を築いていた地域では現在でも先住民人口の割合が高い。今日ではラテンアメリカ諸国のほとんどの地域で公教育の普及に伴い、公用語の識字教育が行われている。公用語とは旧宗主国の言語を指し、公用語をまったく話せない人の数はどこの国でも非常に少ない。

また先住民と白人系・混血系の民族間での分断が激しく、使用言語や肌の色、苗字や着ているものによって厳格に階層が定められている。そのため個人の身体的・民族的特徴によって仕事の内容までもが決められる。

ボリビアは地形的に高地平原、渓谷、東部低地に分けられる。1952 年のボリビア革命によりそれら 3 つの地域の統一を図るためスペイン語を唯一の公用語と定めた。しかし 1994 年に実施された相互文化と大衆参加を目的とする教育改革により、先住民の言語であるケチュア語、アイマラ語、グアラニー語も公用語に加えられた。このため公立小学校での先住民言語の指導が義務化された。しかし現場では教材や指導法の整備が遅れ、効果のある指導が行われている例は少ないようだ。

ラテンアメリカでは人口の自然増加と農村部の不平等な土地所有制度などを背景とし 1965 年には都市部の人口が農村部の人口を超えた。この時期に行われた輸入代替工業化政策により進められた交通網の発達や都市部と農村部の生活インフラの格差などもさらに都市化を促進させる要因となった。この政策ではフォーマルセクターの労働者への保護政策が実施された。これは結果的に企業の競争体質を弱め雇用拡大は促進されなかった。農村部からの人口流出は止まらず都市部でフォーマルセクターに吸収されなかった労働者はインフォーマルセクターを形成することになった。これによりフォーマルとインフォーマルセクターの格差、都市部と農村部の格差が拡大した。

ボリビアでも 1985 年には都市部の人口が農村部の人口を上回った。これは 1952 年に実施した農地改革の結果、高地平原地域の農民に割り当てられた農地面積が少なかった、高地と東部の農業人口と農地面積の不均衡による政府の計画移住、鉱山の閉山や収穫量の減少

による鉱山労働者の流出、農村部と都市部での生活インフラの格差や教育や保健医療へのアクセスの格差などが要因となり移住が促進されたためである。

都市部の労働市場は人口増加に比例して成長しなかったため、農村部から移住した人々の大半がインフォーマルセクターに就労した。この部門では家族経営による製造業とサービス業が大半を占める。また農村部では家族経営による零細小農民が多くそれらをインフォーマルセクターに含めて考えると、ボリビアの大多数の就業者はインフォーマルセクターに属する。

インフォーマルセクターとは都市の多種多様な組織化されてない経済活動、およびそれによって不安定な収入を得ている就業層を指す。インフォーマルとフォーマルセクターでは生産性や就労者の就学年数や所得に大きな差がある。このことからこの部門の生産性や所得の向上を目指すことが貧困削減のキーワードになる。

ボリビアにとって貧困削減への取り組みは最重要課題である。そのためこれまで実施されてきた取り組みの例を、政府・政府と連携した関連機関・NGO の実施運営機関別に紹介しその成果を考察する。

政府は教育面では 1994 年に教育改革を行った。しかしながら教育の現場では、教員の指導力不足や教材・インフラの整備の遅れから際立った効果は上がってきていない。経済面では国民対話を基に PRSP を策定し長引く経済不況を打破するための緊急雇用対策や農業・工業部門での生産性の向上と競争力強化を盛り込んだ開発戦略が発表された。しかし開発戦略計画の長期実施や成果に対する疑問が多く、政治的・経済的に不安定な状態が続いている。

政府と連携した国際機関として UNFPA はボリビア教育省の代替教育庁と連携を取りながら成人に対する識字教育を実施した。これは先住民系言語とスペイン語の読み書きを同時に行い、リプロダクティブヘルスなどの身近なテーマを題材にして指導するもので、指導員も参加者も先住民で構成される。多くの成人女性の参加が報告されている。

また教会系の NGO は農村部での初等教育と技術教育の総合育成センターを運営している。農村部の就学年数は都市部に比べて低い。これは親が学校での教育が実生活に役に立たないという認識を強く抱いていること、また農村の生活では子供も大切な労働力であることが背景となっている。そのため中途退学者が多くなる。このセンターでは就業年数をあげること、また農村の生活や労働に反映できる技術や知識を習得することを目的に運営されている。それらが将来的に農村部の人口流出の抑制と生活向上となることを目指している。

最後に私が関わった NGO の取り組みを紹介する。農村部からの移住者が多く住む郊外において総合教育を行う NGO の成人のための技術指導センターにおいて、編み物等の指導が行われた。生産チームの組織化の過程で行われた数々の試みを通して、普通教育と代替教育の必要性・持続的な活動の必要性・家計維持や生活向上に結びつく技術指導の重要性を認識した。

しかしこれらの取り組みが行われているがボリビアは依然として国民の半数以上が貧困層に属する。社会構造的に先住民と白人系・メスティソ系の人々との分断と格差は激しい。この分断と格差を無くすことは不可能であり、国家統一というような国民の一本化を目指す目標では解決することはできない。文化的・地形的多様性に目を向けた先住民にとってのよりよい生活とは何かを定義する必要がある。

ボリビアにおける人々の分断と格差は基礎的潜在能力における明らかな不平等である。

「よりよい生活」を実現するためにはこの基礎的潜在能力に注目し、それが欠如した状態からそうでない状態にすることを考えなければならない。潜在能力を構成する機能である経済的安定や家計の維持や基本的ニーズの充足が必要で、それらに関しては政府や関連機関や NGO が主体となって制度面の整備やそれぞれの問題解決への取り組みを継続的に実施することが大切である。そして先住民は自ら多様性を認識し内発的にまた組織的に彼らが考えるより良い生活へ向けた取り組みへ行動を起こすことが必要である。

具体的には家計を維持すること目指し、教育は地域や人々の特性を生かしたものとし、適正技術を習得し地域に還元することを目指すことが求められる。そのために効果的な組織化を行うことが必要である。